

2019年11月8日
日本化学工業株式会社

チタン酸バリウム新生産棟の建設着手について

弊社は、積層セラミックコンデンサー（MLCC）の誘電体に用いるチタン酸バリウムの需要拡大に対応するため、徳山工場（山口県）において新生産棟の建設に着手致しました。投資額は約 37 億円になる見込みで、2021 年春の竣工を目指します。建物のスペースに余裕を設け、需要家の要求に応じて段階的な設備増強を行えるようにし、最終的には 2018 年度比で 70~80%の生産能力の増強を目指します。

MLCC は自動車の自動運転の高度化や EV 化により需要が急増しています。今後は 5G の基地局やネットワーク機器、IoT デバイスの普及が期待されるため、更なる需要拡大が見込まれています。この需要拡大に伴いチタン酸バリウムの需要増大が見込まれるため、今回の大型投資を決定致しました。

弊社のチタン酸バリウムの生産法はシュウ酸塩法と呼ばれるもので、水熱合成法やアルコキシド法に比べて、バリウムとチタンの組成が分子レベルで均一で、結晶性に優れています。この特徴により、高信頼性 MLCC 向けの需要が多く、既存の工場では稼働率の高い状況が続いています。

現在、チタン酸バリウムは福島県郡山市の福島第一工場において生産しており、昨年約 10 億円を投じて生産ラインを増設し、生産能力を 10%引き上げました。今回の設備増強は、山口県周南市の徳山工場にて実施します。生産拠点を分散化することで、供給の安定化を図る狙いもあります。

徳山工場に新設する工場での生産を軌道に乗せた後には、既存の福島第一工場において生産効率化に向けた設備の再構築も計画しています。

今年度は弊社において 3 ヶ年中期経営計画の最終年度にあたります。今回の投資により成長の角度を高め、来年度からスタートする次期中期経営計画へとつなげたい考えです。

以上